

デザイン学科講師 水内 智英

1. 研究活動

<p>[講演] 名古屋市広域連携に関する ワーキンググループ第5回 「地域の魅力を共有し育て るためのデザイン」</p>	<p>2015. 5. 14</p>	<p>愛知県半田市役所／名古屋 市広域連携に関する ワーキンググループ</p>	<p>愛知県39市町村の自治体職員で結成される名古屋 市広域連携に関するワーキンググループ の有識者ディスカッションとして講演とワー クショップへの参加を行った。</p>
<p>[書籍装丁] 「人口減少×デザイン」</p>	<p>2015. 6</p>	<p>英治出版 グッドデザイン賞2015 受賞</p>	<p>人口減少社会における状況をインフォメー ショングラフィックス等を利用し分かりやく く解説し、そこからデザインの果たす役割 を具体的事例を持って示す書籍（寛裕介著） の装丁／アートディレクションを担当。</p>
<p>[研究発表] 関係と空間とを分けること なく創出する、地域のメ ディアとしての場——デザ インリサーチを起点に空間 からプログラムまでをシム レスに形成するデザイン 方法</p>	<p>2015. 6</p>	<p>日本デザイン学会第62回 春期研究発表大会</p>	<p>地域社会に関わるデザイン方法論として、地 域の魅力を伝えるメディアとして機能するゲ ストハウス制作とそのプロセスについて、事 例検証・考察を行った。中村真梨子、萩原 周と共同発表</p>

〔寄稿〕 Representation of 5	2015. 6. 12	5 Designing Media Ecology 『5』編集室	様々な [5] に関わる情報をインフォメーショングラフィックスとして表現。宮田雅子、南部隆一との共同制作。
〔デザインプロジェクト企画実施〕 「地域と共につくる無人販売所——土と人のデザインプロジェクト2015」	2015. 7～ 2016. 3	名古屋芸術大学近隣地域 / 名古屋芸術大学デザイン学部	大学周辺の地域をリサーチし、地域と共に無人販売所を制作することで、地域内外のつながりを生むプロジェクト。
〔デザインプロジェクト企画実施〕 「みんなでつくる みたけカルタ」制作	2015. 9～ 2016. 3	岐阜県可児郡御嵩町	受託研究事業として御嵩町の魅力を伝えるツールとしてのカルタ作りを行った。地域のリサーチからアウトプットまでの一貫したデザインプロジェクトとして実施した。
〔ワークショップ〕 昼涼みプロジェクト「手作り楽器オーケストラ！」	2015. 8	春日井市民文化財団 文化フォーラム春日井	子どもを対象とした手作り楽器とその演奏のワークショップを音楽学部アートマネジメントコースとの共同事業として行った。
〔寄稿〕 レビュー 「スモール イズ ビューティフル」 「日常実践のポイエティック」	2015. 11	基礎デザイン学会 「デザインを考える——名著と共に」 (編集委員)	デザインの名著を選書し紹介する基礎デザイン学会のプロジェクトにおいて、「スモールイズ ビューティフル」「日常実践のポイエティック」の2冊を担当しレビューを執筆した。
〔寄稿〕 “5” in transformation	2015. 12. 11	5 Designing Media Ecology 『5』編集室	様々な [5] に関わる情報をインフォメーショングラフィックスとして表現。宮田雅子、南部隆一との共同制作。
〔講演〕 犬山市デザイン研修会 「デザインの役割とは？——地域・行政とデザインとの接点」	2015. 2. 8	愛知県犬山市役所	犬山市職員研修会としてデザインと行政の接点について具体的事例を交えながら講演を行った。
〔講演〕 「クリエイティブシティーって何？——北名古屋をクリエイティブの力で活気づけるには」	2016. 2. 22	北名古屋市役所 / 名古屋芸術大学	デザインがどのように地域づくりへ効果を発揮できるのか、主に北名古屋市職員を対象にした講演会とワークショップを行った。
〔講演〕 犬山市新規採用予定者研修 「人との関係・仕事・まちをデザインする——犬山市をデザインする」	2016. 3. 18	愛知県犬山市役所	犬山市の新規採用職員へ向けて、広義のデザインがどう行政に関係しているのか理解してもらえよう、ワークショップを交えながら講演を行った。

2. 教育活動（教育実践上の主な業績）

大学院授業担当 有 無

授業科目名 デザイン理論		多様な学問領域と重なりながら広がるデザイン理論を様々な角度から捉えられるよう、近代デザイン思想、経験、テクノロジー、エコロジー、認知・行動、コミュニケーション、文化形成など、それぞれ異なったテーマを立て、それらに沿って具体的な理論や事例を交え解説した。
<input type="checkbox"/> 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
授業の最後にその時間の内容と関連するテーマでミニレポートを書く時間を作り、書きながら考える体験を積み重ねられるようにした。また、授業最初には前回のミニレポートの中から数点を紹介しながら、関連する視点や事柄についてさらに解説を加えることを繰り返し行った。また、新たに「経済とデザイン」という授業回を加え、より広くデザインと経済との関係を考える機会を設けた。	難解な理論もできるだけ身近に感じられるよう、画像を多く使ったスライドを毎回用意し、新たに映像資料も講義に加えた。興味を持った理論を学生自身が引き続き探求できるよう、授業で扱ったテーマごとの参考書籍リストを作成した。	
授業科目名 コミュニケーション論		前半の授業では、コミュニケーションの基礎理論を扱い、根本的なところからコミュニケーションとは何かを考察し、コミュニケーションデザインへのより深い理解へと繋げた。授業の後半では、そのコミュニケーションデザインをどのように地域コミュニティのために活用することができるのか、社会的背景や具体的な事例を通じて解説した。
<input type="checkbox"/> 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
できるだけ最新の具体的な事例を使い、コミュニケーションや地域に関わるデザインについて理解を深められるようにした。また、新たに3回の授業回を使い、視覚化の概要と歴史、その手法、視覚化の現在について解説する回を設け、デザインや美術とコミュニケーションの関わりをより身近に感じられるようにした。	授業内容が身近に感じられるよう、画像中心のスライドを毎回用意した。加えて、効果的に映像資料も使用した。特に現在進行形で行われている事例については刷新し、各授業回に加えた。	
授業科目名 立体造形（多面体と植物）		デザイン学部一年次で実施するファンデーション（基礎実技）の専任として、課題内容、配布物、スケジューリングやスタッフティング、学生へのオリエンテーション等、総合的な視点からファンデーション管理運営に関わった。基礎実技の改定に向けた検討も同時に行った。また、新たに前後期にそれぞれ一回ずつ、グループワークでのワンダーワークショップの機会を設け、それぞれの回で新たな側面や方法を学ぶことのできる機会を設けた。
<input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
毎回、全員と面談をし、課題の進捗状況や次回までの具体的なアドバイスを行った。特に、植物のなかに見られる、幾何学的要素に気付き、多面体へと展開できるよう指導した。	植物の中に見られる幾何学的構造に意識的に目が向けられるような画像資料や、多面体や植物文様を利用したデザインの実例などをできるだけ多く紹介した。	
授業科目名 デザイン実技I（F1）——あなたの素材観（感）		
<input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
毎回、全員と面談をし、課題の進捗状況や次回までの具体的なアドバイスを行った。特に、自分独自の視点で編集できるよう面談を通じて学生の興味や視点を具体的に掘り起こす指導をした。	過去の参考作品を効果的に使いながら、どのように観察し、編集するのか事例を通じて指導した。また、基本的な製本についての理解を助ける資料を用意した。	

授業科目名 デザイン実技I (F2) ——知覚とイマジネーション		
<input type="checkbox"/> 前期 ◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
毎回、全員と面談をし、課題の進捗状況や次回までの具体的なアドバイスを行った。特に変化の仕方や動き方の多様さ、非現実的な変化の中に見れる現実感に気付くことができるよう指導した。	最終的な作品制作の前段階としての、スケッチでのアイデア展開では、他の人の事例を紹介しながら出来るだけ広くアイデアが広げられるようにした。	
授業科目名 デザイン実技I (F3) ——廃品による素材体験		
<input type="checkbox"/> 前期 ◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
毎回、全員と面談をし、課題の進捗状況や次回までの具体的なアドバイスを行った。特に、手触りや素材の特性について意識的に関心が向けられるよう助言を行った。また、立体構成に苦手意識を感じている学生に対しては平面的な作業との共通点についても目が向けられるよう指導した。	毎回授業で使用するワークシートで自分の制作を丁寧に振り返る時間をつくった。	
授業科目名 デザイン実技Ⅲ-1 (LS)		実際の都市環境をフィールドとして読み取り、Atlas：地図帳を制作するという課題を通じて、フィールドワークを中心とした多様なリサーチ手法の習得と同時に、環境をより深い視点から分析し、その視点を編集し表示する方法を学ぶ。リサーチによって得られた視点と具体的なデザイン提案との間との関係を実際の提案作成作業を通じて意識化させた。
◆前期 <input type="checkbox"/> 後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
特定のフィールドを設定して、丹念にフィールドワークを繰り返すことによって環境の特性を読み解き、より本質的な視点を得るための方法を体験させた。また、フィールドワークを通じて見いだした視点を他者に伝わる表現として編集することを求め、またそこから更にグループワークを経て具体的なデザイン提案へと展開するという一連のプロセスを踏めるような授業構成とした。また、授業の前半と課題講評時に人類学を専門とする講師を招き、人類学的フィールドワークの視点も授業に取り込んだ。	デザインリサーチのためのフィールドワーク手順を簡潔にまとめた資料や、プレスト、シャッフル・ディスクッション、KJ法、ペルソナ手法、シナリオ手法などコンセプト立案のための手法をまとめた教材を用意した。また、課題書は授業の前後半のそれぞれの段階で学生が理解しやすいよう2つに分けて用意した。また、各課題で、作品アイデアを整理するためのワークシートを作成した。	
授業科目名 デザイン実技Ⅱ-3 (LS)		課題「If」では、身近なモノをとりまく「条件」を変化させることによって、どのようにその形態が変化するのか想像し、モノの形態が様々な関係性の上に成立していることを理解させた。課題「可能性発見からのデザイン」では、使用者によるモノの使用を分析し、その気付きからの制作を体験させた。それによって、環境や認知・行動に対する洞察力を伴った、環境やモノのもつ「可能性」からのデザイン発想の理解へとつなげた。
<input type="checkbox"/> 前期 ◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
関連した二つの課題によって行った。課題「If」では、普段見慣れたモノに、ある「仮定」を設定した上でどのようにその形態を変化させることができるのか発想し、条件と形態との関連について意識的に考える機会をつくった。課題「可能性発見からのデザイン」では、モノの「可能性：意図されていない使われ方」に目を向け、モノと使用者との関係について意識的に考える機会をつくった。それら2つの課題によってモノをとりまく諸相についてより分析的に捉えられるよう指導した。	それぞれの課題では導入となるワークショップを用意してよりスムーズに課題に取り組めるようにした。また、If課題では具体的な仮定ストーリーを用意しより実感を伴ったデザイン発想へとつなげられるようにした。また、課題書は、課題を通じて何を理解し、どのような視点を得ることが期待されるか明確に記したものを用意した。	

授業科目名 デザイン実技Ⅳ（LS）		卒業制作の前段階のリサーチワークとして、各自が設けたテーマについて、様々な角度から情報収集し、研究を多角的また、本質的に深める資料制作を課した。またその基礎的資料をもとに、編集を行い、一冊のリサーチ資料（情報誌）へとまとめる授業構成とすることで、自分の興味を社会的文脈に位置付けながら本質的に理解できるようにした。
◆前期 □後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
授業各回毎に小テーマを設け、そのテーマに応じた事例や考え方、社会的背景を解説し。併せて、それぞれの個別テーマについて面談方法で個別指導にあたった。それによって、より広い視野と同時代的な観点を得られるよう工夫した。	参考書籍、インターネット資料、映像資料等、それぞれのテーマに応じて示した。	
授業科目名 卒業研究（LS）		各自のテーマを具体的な作品制作へつなげていくために、個別指導を通じての指導へあたった。進捗状況を学年のメンバーで共有するため、各節目毎に合同プレゼンテーションの機会をもつよう、授業計画を立てた。
□前期 ◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
各学生が進める卒業研究を、他の学生間でも参照できるように、インターネット資料共有の仕組みを取り入れた。	参考書籍、インターネット資料、映像資料等、それぞれのテーマに応じて示した。	
授業科目名 デザインと文化 1・2		主に1年生・2年生を対象にした本講座では、主に実践的に活躍する外部講師から講義を受けることで、デザインに対する視野を広げる、同時代のデザインが求める観点到に敏感になる、自らの具体的な将来像や目的を描くことに繋げる、ことを授業目標にしている。
□前期 ◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
広範囲に広がるデザインの領域をカバーするため、それぞれのコースから1名ずつ人選をお願いした。また、より現在の学びと将来像とが繋がっていることが実感できるように、卒業生にも積極的に登壇してもらった。		

3. 学会等および社会における主な活動

基礎デザイン学会	2010～	研究会参加・研究発表等
日本デザイン学会	2011～	研究会参加・研究発表等
科学研究費補助金（基盤研究B）「大学におけるヴィジュアルリテラシー教育の実践とその基礎理論の構築」研究	2014～	研究会参加・リサーチ・研究発表等
大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 総合地球環境学研究所 FS研究「ローカル・スタンダードによる地域社会再生の実践と風土論の再構築」	2014～	研究会参加・リサーチ・研究発表等
科学研究費補助金（基盤研究C）「リスク社会における「物語を可視化し共有するデザイン」の実践と基礎理論の構築」研究	2015～	研究会参加・リサーチ・研究発表等
岐阜県可見郡御嵩町「みたけ創生有識者会議」	2015～	審議会出席等